

(ウ)小括

以上、職場のデジタル化の現状について検討した。その結果、以下の点が明らかになった。

- ①仕事に必要なデジタル機器は概ねそろえられているが、一部に新旧が入り交じっているために支障をきたす状態にある。
- ②仕事に必要な文書は概ねデジタル化されているが、約2割の回答者は不十分だと考えている。
- ③デジタル機器を使いこなしている人とそうでない人が拮抗している。特に50歳代は半数強が使いこなせていないが、30歳代でも使いこなしていない割合が4割強であり、デジタル機器を使いこなせるようになることは全年代の課題である。
- ④他部署とのデータのやり取りは、半数強で紙が残っている状況である。特に一般職の6割弱は、紙が残っていると回答した。
- ⑤デジタル機器を使うことで仕事の効率化が進んでいるが、50歳代の4割弱は労働時間が長くなると考えている。
- ⑥十分な議論がなされずにデジタル化が進んできたと考える割合が、半数を超えている。特に30歳代と主任・係長級において、この割合がやや高くなっている。
- ⑦約8割の回答者が、デジタル化が職場メンバー間の情報共有にプラスに働いたと考えている。特に50歳代は、他の年代よりもこの割合が高くなっている。
- ⑧みんなでデジタル化を推進しようという職場風土は、約8割の回答者があるとしている。
- ⑨会社のデジタル化は、職場のデジタル化以上に進んでいないと考えている。特に20歳代は、6割強が不十分だと感じている。